

角田山山行報告

【山行日】2016年 4月 10日(日) 晴れ

【集 合】 岩舟支所P AM 5:30

【費 用】 マイカー2台 : 6,000円

【メンバー】 CL:鈴木ユ、石田、大西、島田、
田村、津佐、藤原、松館、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P5:30=角田浜

P8:15/8:30~桜尾根登山口 8:45~角田山 10:00~

向陽台 10:10/10:20~角田山 10:40/11:20~三望平

11:50~角田浜 P13:10/13:20=岩舟支所 P17:00



素晴らしい花々にもう一度会いたいとリクエストがあり、花の名山「角田山」山行を計画した。角田山には登山口が七ヶ所あるが、観光協会のガイドに載ってない桜尾根コースを登ることにする。桜尾根コースは雪割草やカタクリの花が素晴らしく、地元の方達も人には話さず秘かに楽しむコース



らしい。角田浜の駐車場に車を止め、トイレとストレッチを済ませ出発する。

登山口から登り始めるとすぐに雪割草(オオミスミソウ)やイカリソウが出迎えてくれる。今年は暖冬の影響で開花時期が早く、雪割草の見ごろは過ぎていたがまだまだ華麗に色を競っていた。イカリソウは丁度見頃で、山頂まで花が繋がっており実に見事に咲き誇っていた。

30分くらい登った尾根で休憩し、ここからは健脚組とシルバー組に分かれて登ることにする。

高度が上がるにつれカタクリの花が目立つようになり、南斜面は少し色あせていたが北斜面は丁度見頃となっていた。

尾根の両側の斜面がカタクリで埋め尽くされ、皆さんから「ワ～綺麗」と歓声上がる。

登山道の脇には、イカリソウやエチゴエンゴサク等が目を楽しませてくれ、急な登りも苦にならない。「綺麗、綺麗」と言って登ると、灯台コースからの道に合流し、平坦な道をしばらく歩くと山頂に着く。山頂は広く園地となっており、二等三角点や銅像、鐘がついた山頂標識、ベンチなどがある。

山頂の日陰のベンチを確保し、ザックをデポして観音堂がある展望の良い向陽台へ向かった。途中にあるトイレに寄り、数分程東へ下ると向陽台に着く。ここからの展望は抜群



で、広大な越後平野の向こうには朝日連峰や飯豊連峰、五頭連峰が見渡せるが、今日は霞んでい

て遠望は利かない。越後平野の眺望を楽しみながら、デコポンやチョコレートをいただき、記念写真



を撮って山頂に戻る。山頂に戻る途中で TEL が入り、シルバー組が山頂に着いたと連絡がある。急いで戻りお互いの状況を報告して、昼食の準備に掛かる。天ぷらうどんに厚焼き玉子、タケノコやフキの煮物等々豪華なランチをゆっくり楽しみ下山する。下山は角田岬に向かって降りる、灯台コースを降りることにする。

このコースはカタクリの花も見事だが、岩場やアップダウンなど変化に富んでいて、何よりも日本海に向かっ

て降りるこのコースはお勧めのコースである。登ってきたコースを分岐まで戻り、直進すると灯台コースに入る。尾根の両側にカタクリが咲き乱れ、なんとも爽快に歩ける登山道を下って行く。

間もなくベンチがある三望台を過ぎ、五ヶ峠コースの分岐を左に分け、直ぐ先で小浜コースを左に分けると右も左もカタクリでいっぱいの尾根道を下って行く。間もなく前方の見晴が良くなり、岩場を降りるようになる。岩場で記念写真を撮り、日本海の絶景に向かって降りて行く。痩せ尾根を鞍部まで降りると登り返し、3つピークを越えると灯台へ向かって降りるようになる。山から海に向かって降りて行く夢のようなコースを歩き、灯台の脇を抜けると海岸へ降りる石段が海に通じている。

最後は波打ち際の砂浜へ降り立つが、我 SL は階段の柵の隙間を通り砂浜をパス。『最後に砂浜に降りる所が感動なのに！！』と文句を言いながら車まで戻った。

